

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年7月29日現在

今月の重点活動

■トマト 海津トマト部会販売反省会の開催

6月28日に、海津トマト部会販売反省会が開催され、平成25年産販売実績と出荷推移について、JA全農岐阜、JAにしみの、市場関係者から報告があった。過去最高の販売額であった平成24年産と比べ、販売額88%、単価82%と下回ったものの、出荷量は107%と増加しており、最終販売額は13億円弱になると見込まれ、まずまずの販売であった。

その一方で、品質面では、5月以降高温が続き、特に6月中旬には35℃以上の気温であったことから、日焼け果、軟果が多発しており、5月以降の高温対策については、次年度産の品質維持に向けて、さらに支援していくこととしている。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー JAにしみのブロッコリー生産協議会総会の開催

6月26日に、JAにしみのブロッコリー生産協議会総会が開催され、大垣、安八、不破の各部会員が参加し、ブロッコリー生産基準及び規約変更等について協議された。昨年の天候不順による生産量の減少に対応するため、部会ごとに地域適応性のある栽培品種を選定するように変更された。

農業普及課からは、今年産栽培暦における使用農薬の変更、低温肥大性に優れる新品種の栽培について説明した。また、花らい黄化対策のため、基肥一発肥料に含まれる緩効性肥料の種類変更を行うことを提案し、正品化率の向上を目指していくよう呼びかけた。

売れる農畜産物づくり

■水稲 水稲の適期収穫に向けて

あきたこまちは、7月10日～17日に出穂期を迎え、4月中旬植えは平年より2日遅れ、4月末～5月初旬植えは平年並み～やや早くなった。それ以外の品種の出穂期は、ひとめぼれ、コシヒカリは平年並み、あさひの夢、ハツシモは2日程度早まる見込みである。

7月16日に、JA水稲共同乾燥施設稼働打合せ会議が開催され、農業普及課からは、ハツシモを中心とした水稲適期収穫の留意点について説明しており、今後は地域ごとの荷受計画作成など、適期収穫について支援していくこととしている。

■大豆 大豆播種は順調

大豆の播種は、昨年よりやや遅れ、6月29日に海津市で始まった。平年より10日以上早く、7月8日に梅雨明けしたこともあり、天候に恵まれて播種作業は順調に進み、今後の天候にもよるが、7月中には、ほぼ終了すると見られる。

出芽、初期生育ともほぼ順調に推移しているが、播種後の降雨により、除草剤の効果が心配されるほ場も一部で見られるため、排水溝の定期的な点検・補修、除草対策の実施等、初期生育の確保について支援することとしている。

■きゅうり 海津胡瓜部会全員研究会で黄化えそ病対策の徹底

6月20日に、海津胡瓜部会全員研究会が開催され、農業普及課から、平成25年産の黄化えそ病の発生状況と今後の対策、農業技術センター環境部から、赤色ネット利用によるミナミキイロアザミウマの防除対策等について説明し、黄化えそ病対策の徹底を図った。

■いちご 海津いちご部会巡回研修会の開催

7月10日～11日に、海津いちご部会巡回研修会が開催され、支部別に各生産者ほ場を見学し、葉かきや施肥などの肥培管理について意見交換を行った。農業普及課からは、現在の育苗状況を報告し、より良い肥培管理について説明を行った。

■ ほうれんそう 牧園芸組合ほうれんそう部会反省会の開催

6月22日に、牧園芸組合ほうれんそう部会の反省会が開催された。ほうれんそうは、年末にかけて品不足で高騰したこともあり、平均単価は前年比の115%と高くなったものの、冷え込みの影響は露地栽培では大きく、トンネル栽培でも生育遅延や、生育の長期化による窒素切れに伴う黄化葉の発生に加えて、ヒヨドリの食害もあり、出荷量は前年の85%にとどまった。農業普及課では、年内の出荷の確保のため、8～9月の発芽を安定させる遮光技術について紹介し、本年産に向けた技術指導も併せて行った。

■ えだまめ 良食味品種「湯あがり娘」の出荷盛ん

7月5日に、出荷物の品質向上のため、海津枝豆部会目揃会が開催された。今年は、昨年より出荷は遅れ気味であるが、食味が良好な品種「湯あがり娘」の出荷盛期を迎えている。

目揃会後の研究会において、農業普及課から、干ばつの影響を受け、莢の奇形が観察されるため、灌水等の栽培管理について指導を行った。

■ かき 摘果講習会の開催

7月9日に養老町果樹振興会、7月10日に南濃町柿部会で、摘果講習会が開催された。農業普及課から、昨年の摘果不足による小玉傾向を回避するため、強めの摘果を行うことの必要性、梅雨時の排水対策、盛夏干ばつ時の灌水について説明した。

また、鳥獣害対策として、「くぐれんテグス君」展示ほについて紹介するとともに、新規に猪鹿鳥無猿柵を設置し、集落ぐるみで取り組むことの重要性について啓発した。



【摘果講習会の様子】

■ 茶 農薬の効果確認試験を実施

茶の害虫発生予察調査において、チャトゲコナジラミ等を対象とした農薬の効果確認試験を実施し、対象害虫に対する効果が確認できた。農業普及課から、調査結果について情報提供し、適切な害虫防除について支援した。

戦略的な流通・販売

■ 農産加工グループ 安八町農産加工運営委員会活動支援

6月26日～7月8日に、安八町農産加工運営委員会の3部会において、加工活動を記録する作業日誌について、記帳状況を確認し、改善点について検討した。

梅部会では、グループに分かれて、販売している加工品の商品チェックを行い、今後の商品開発に向けた支援を行った。

多様な担い手の育成・確保

■ 女性組織 女性農業経営アドバイザー視察研修会の開催

7月16日に、西濃ブロック女性農業経営アドバイザーによる視察研修会が行われ、その運営について支援した。海津市アドバイザー2名のなす経営と6次産業化の取り組みについて研修し、情報交換を行った後、「伊賀の里モクモク手づくりファーム」において、加工・販売の取り組みについて視察を行った。

魅力ある農村づくり

■ 鳥獣害対策 鹿の生息数調査

7月3日に、岐阜大学の寄附講座（鳥獣対策研究部門）が行ったシカ被害調査に、農業普及課からも同行し、垂井町、池田町内の林地において、下草の摂食状況から鹿の生息数を推計する方法について、岐阜大学講師等から指導を受けた。

今回の調査方法により、管内の鹿の生息状況を把握するとともに、適切な鳥獣害対策に活用することとしている。



【鹿の生息数調査】